

放射線科研修プログラム

プログラム指導者 石守 崇好、高木 雄久

1. プログラムの目的と特徴

本プログラムは臨床研修医が放射線科ローテーションを選択した場合の研修内容である。

放射線科は画像診断・放射線治療に大別され、それぞれがまた臓器別に分かれるなど広範囲の領域にわたるため、研修期間と研修医の希望に応じて重点を絞って研修を行う。

2. 指導体制

2023 年 4 月現在、北野病院放射線科(放射線診断科・腫瘍放射線科)には 7 名の放射線診断専門医と 2 名の放射線治療専門医が在籍しており、各分野において高い専門性を有する医師から指導を受けられる体制となっている。

3. 具体的な到達目標

1 ヶ月間の研修期間となる場合が多く、原則として下記 1. を中心とした研修を行う。ただし、研修期間および希望に応じて 2. 以下の研修を行う事もできる。

(1) CT、MR、RI、胸部単純写真の診断・レポート作成

基本的な疾患の所見を学習し、読影力をつけ、レポートを作成できることを目標とする。自ら主体的に画像を読影、レポートを作成し、放射線診断専門医の指導を受ける。

- CT では検査室における検査実施業務も担当し、各臓器、疾患における造影剤投与のタイミングや適切量等を学ぶ。MR では部位・疾患・病態ごとの最適の撮像法についても習得する。
- RI では各検査に使用する放射性医薬品を理解し、適応、検査法について学ぶ。
- 胸部単純写真の診断では基本的疾患の所見の診断について学ぶ。

(2) 消化管造影検査の実施と診断

胃透視検査、注腸造影検査について、上級医の検査を見学、および上級医の指導のもとに実施し、基本的手技、適応、禁忌、診断について習得する。

(3) 血管造影・IVR(心臓、頭部を除く)の実施と診断

治療目的の IVR がほとんどであり、薬剤注入、動脈塞栓術などの手技について研修し、基本的手技を理解・習得する。

(4) 放射線治療

放射線治療については、生物学的、物理学的基礎の理解、がん診療における放射線治療の占める役割についても理解し、実際の照射、治療計画について研修する。

外部放射線治療については高精度放射線治療(強度変調放射線治療、体幹部定位放射線治療(肺がん、肝臓がんなど))を数多く実施しておりその適応や治療の実践を研修する。

また子宮頸がんを中心に画像誘導小線源治療も実施しており小線源治療についても研修可能である。

4. 教育課程

(1) 研修医が参加する週間予定・教育活動

- ① CT、MR、RI、胸部単純撮影の検査実施および画像診断 月～金 毎日
- ② 消化管造影検査 月・火・木
- ③ 血管造影・IVR 水・金
- ④ 放射線治療と治療計画 月～金 毎日
- ⑤ 小線源治療(主に火曜日)

②～⑤を希望する場合には、研修開始前にプログラム指導者に申し出ること。

(2)研修医が参加して有益と思われる活動（日時が変更される可能性あり）

- ① 呼吸器合同カンファレンス(治療も含む)
毎週月曜日 17 時半～18 時半 参加者:呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科医師
- ② 消化器センター症例検討カンファレンス、肝胆膵 CPC
毎週木曜日 17 時半～ 参加者:外科、消化器内科、放射線科医師
- ③ 婦人科症例検討カンファレンス
毎週水曜日 17 時～18 時 参加者:婦人科、放射線科医師
- ④ 婦人科・放射線科治療カンファレンス
毎週水曜日 17 時～18 時 参加者:婦人科、放射線科医師
- ⑤ 耳鼻科・放射線科治療カンファレンス
毎週火曜日 17 時半～18 時半 参加者:耳鼻科、放射線科医師
- ⑥ 乳腺放射線治療カンファレンス
毎週水曜日 17 時半～ 参加者:乳腺外科、放射線科医師

上記の他、京都大学放射線診断科とのオンラインカンファレンス(RI、骨盤部、脳神経、その他)にも参加しており、希望者は自己研鑽として参加が可能である。

5.評価方法

各分野における技量、知識の到達度に加え、研修態度、協調性(医師間および多職種)、勤怠状況なども加味し、プログラム指導者が総合的に評価する。